



「第5回横浜市北部地区 Update Seminar
 ～藤が丘病診連携の会」を開催しました

リハビリテーション病院眼科 教授 西村 栄一

11月25日(水)、「第5回横浜市北部地区 Update Seminar ～藤が丘病診連携の会」が MELONDIA あざみ野にて開催されました。本会は今回より当科が主体となって執り行いました。当日は、これまでで最多となる29名の近隣の先生方にご参加いただき、横浜市北部地区の中核病院として当科が求められている役割を再認識いたしました。



参加予定者には事前に当科が掲げたテーマに関するアンケートを実施し、当日、ディスカッションの場を設けて意見交換を行いました。さらに、当日も会場にてアンケートを行い、各医療機関が実際にどのような形で連携することが可能なのか、施設ごとのご意見・ご要望等を伺いました。ご記入頂いた結果をもとに、今後の病診連携につなげていく所存です。

さらに当科4名の医師らによる演題発表および、特別講師として順天堂大学医学部附属静岡病院眼科 教授太田俊彦先生をお招きし「強膜内固定術 update」と題してご講演をいただきました。当科が行っている研究内容の発表とともに、特別講演において現在着目されている眼内レンズ固定術について、参加者らと共に技術・専門知識の向上を図りました。

会終了後は懇親会を設け、参加されたみなさまより貴重なご意見を直接伺うことができ、交流を深める有意義な時間を過ごすことができました。

今後も地域の先生方のご要望を取り入れながら、近隣医療機関および患者さんにとってよりよい病診連携の形をつくりたいと考えております。病診連携を通して、さらなる地域医療に貢献するために継続して会を開催していきたいと考えております。

平成27年度秋季公開講座講演要旨

冬に増加する心不全入院
 ～増悪因子をコントロールする

藤が丘病院循環器内科 准教授 江波戸 美緒

秋季公開講座では冬に増加する心不全入院～増悪因子をコントロールするという題でお話をさせていただきました。世界に先駆けて高齢化社会に突入した日本では、心不全による入院の繰り返しが大きな問題となってきています。そしてこの問題がいずれ世界の医療において大問題になるという認



識は、世界中の循環器内科医の間で共有されています。急性心不全、慢性心不全の急性増悪は冬季の夜間に発症しやすいこともあり、本来感染症の世界で「大流行」を意味する「パンデミック」という言葉が流用され「心不全パンデミック」という造語まででてきているほどです。今回は心不全の病態解説から重症度分類、予防と治療までのお話をさせていただきました。皆さん熱心にメモを取りながら聴講され、たくさんの質問をしてくださりました。今後の私の日常診療に生かしていきたいと思っております。

平成27年度秋季公開講座講演要旨

かぜ、インフルエンザ、肺炎と微生物

藤が丘病院臨床病理検査室 臨床検査技師 中村 久子

かぜの多くがウイルスによって引き起こされます。ライノウイルス、コロナウイルスなど様々なウイルスが原因となります。インフルエンザはインフルエンザウイルスの感染によって起こります。通常のかぜと異なり、38℃以上の急な発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身症状が強く現れます。ウイルスは人の細胞内で増殖しますが、感染初期は量が少なく、検査で陰性となる場合があります。予防に用いられるワクチンは、今シーズンからB型が2種入った4価ワクチンとなりました。肺炎はインフルエンザなどに併発する場合があります。日常でかかる肺炎の原因で最も多いのは肺炎球菌です。平成26年10月より65歳以上の肺炎球菌感染症の定期接種への取り組みが始まりました。



これから本格的な冬を迎え、かぜやインフルエンザが流行します。予防のため、うがいや手洗いを心掛けましょう。

平成27年度秋季公開講座講演要旨

気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患(COPD)の検査について

藤が丘病院臨床病理検査室 臨床検査技師 岡崎 美幸

咳・痰や息苦しさの症状がある気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患(COPD)の診断には、呼吸機能検査が有用です。呼吸機能検査とは、スパイロメーターという機械でマウスピースを口にくわえて、呼吸時の吸気量・呼気量を測定し呼吸の能力を調べる検査です。



喘息の症状には季節・日などの変動があるため、自己管理

が大切になります。自己管理にはぜんそく日記やピークフローメーターの利用が有効的です。

また、1980年頃より増加傾向にある COPD は、主に喫煙によって発症する疾患で早期発見・早期治療が重要です。努力性肺活量という呼吸機能検査では、「肺年齢」を知ることが出来ます。呼吸機能は健康な人でも 20 歳代をピークに加齢とともに低下してきますが、喫煙や呼吸器の病気等によりその低下が健康な方より早くなります。肺年齢を検診や人間ドック等で定期的に測定し、肺の健康維持・病気の予防・早期発見に役立ててください。

院内部署紹介

生理検査室

リハビリテーション病院生理検査室 臨床検査技師 北井 仁美

生理検査室は、臨床検査技師2名で受付・検査業務を行っています。扱っている検査は、G階の検査室での心電図・血圧脈波・呼吸機能・睡眠時無呼吸・超音波検査、4階の心臓リハビリテーション室での心肺運動負荷試験など多岐にわたります。

生理検査は直接患者さんと接するため、看護師・看護補助員・放射線室・リハビリテーションセンターなど、他部門のスタッフと協力しながら、安心して安全な検査を心がけています。また、診断や治療に必要な正確なデータを提供するため、研修会や学会へも積極的に参加し研鑽に努めています。

心肺運動負荷試験では、心臓リハビリテーションを行う患者さんの運動処方やリハビリの効果判定を行うなど、チーム医療の一員として連携しています。最近ではアスリートのメディカルチェックも開始され、心肺機能検査などを行い、多職種と協働しながらチーム医療の一員として努めています。これからもよろしくお願い致します。



院内部署紹介

8階西病棟について

8階西病棟 看護師長 田中 伸

8階西病棟は呼吸器センター35床、腎臓内科7床で合計42床の内科混合病棟です。看護師は、元気いっぱいな若手から経験豊富なベテランまで幅広くそろった29名が勤務しています。

当病棟は慢性疾患の患者さんが多く、病気と共に生活している方々を日々支えています。特に主診療科である呼吸器内科では、ご自宅での療養希望が多いため、家族を含めた生

活支援が必要となります。看護師と医師が中心となり他職種と協力して充実した退院支援を行っています。なかには疼痛等に悩む患者さんもいらっしゃるので、緩和ケアも積極的に取り組んでいます。また、病気の影響で食事に悩まされている場合にも迅速に対応できるよう、今年度から病棟管理栄養士を配置し、できるかぎりの対応をしています。看護師一同、患者さんに寄り添えるような看護を提供していきたいと思います。今後とも関係各所の方々のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い致します。



山田邦子さん講演会

「大丈夫だよ、がんばろう！」を開催しました

藤が丘病院・リハビリテーション病院看護部藤和会

看護部藤和会では、看護職員の日頃の労をねぎらう目的で、年に1度講演イベントを開催しています。今年度はタレントの山田邦子さんをお招きして、ご自身の乳がん発見時の様子から治療の経過、そして現在の活動に至るまでユーモアたっぷりにお話していただきました。1980年代からお笑いタレントとして活躍されて、磨き抜かれた笑いのセンスとマシガントークで、漫オブーム時代を知る40代以上の職員を王道ネタで抱腹絶倒させ、山田邦子さんの活躍を知らない20代の職員をあっという間に笑いの渦に引き込みました。合唱の指導あり、自作曲の披露ありと、1時間の講演は大盛況で終了しました。

山田邦子さんから頂いた元気と笑いで免疫力がアップした看護職員は、元気にこの冬を乗り越えていきたいと思います。



横浜市自衛消防隊審査会に参加しました

今年の藤が丘病院自衛消防隊は、鎌崎瑞穂(リハ室)、細川美咲(臨床工学室)、大越真弥(臨床病理検査室)、長沢あすか、辻本さなえ(看護部)の5名で編成されました。

8月のまだ暑い時期から、オレンジ色のユニフォームを着て青葉消防署の方々の指導の下、練習を重ね、10月21日に行われた横浜市自衛消防隊審査会に青葉区代表として参加しました。結果は入賞に至らず残念でしたが、職種が違って

も皆で力を合わせることができたのは、日々チーム医療を実践している賜物であると実感し、より絆を深めることができました。今回ご指導いただきました青葉消防署の皆様へ感謝致します。



(4階西病棟 看護師長 辻本 さなえ)

「医療安全の日」講演会を開催しました

「医療安全の日」をご存知ですか？

藤が丘病院では2002年に大きな医療事故がありました。この事故を決して風化させないために、そして、この事故を教訓として安全な医療を目指す文化を醸成するために、事故の起きた10月28日を「医療安全の日」と定め、毎年講演会を開催しています。今年、10月29日に、医療安全のエキスパートである上尾中央総合病院 院長補佐 長谷川 剛先生をお迎えしてご講演していただきました。講演のタイトルは「患者・家族との良好な関係構築のために」でした。長谷川先生の軽妙なトークで、ご自身の入院経験や幼少期の母親の闘病生活のエピソードを交えながら、笑いあり涙ありの講演会となりました。

(藤が丘病院管理第二課 久保田 浩司)



ボイラー祭を行いました

11月2日(月)、藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院でそれぞれ“平成27年度ボイラー祭”が行われました。当日は、眞田院長・三邊院長・高橋副院長も参列し、



神棚にお供えをし、参列者全員でボイラーに対する感謝の念を深めるとともに、安全操業の誓いを新たにしました。

ボイラー祭の原点は、『ふいご』を用いる刀鍛冶などの間で、毎年11月8日に鍛冶場を清掃し、‘火の神’に感謝する習わしから、昭和11年に、ときの汽罐協会が11月8日を汽缶祭と定めたことによります。昭和24年、汽缶をボイラーと呼ぶようになったことから、汽缶祭はボイラー祭と名称が変わりました。今年もまた“火”のありがたさに改めて感謝したいと思います。

(藤が丘病院防災センター 佐藤 幸平)

平成27年度藤が丘病院初期臨床研修修了者同窓会が開催されました

11月7日、浜松町東京會館にて、藤が丘病院で初期臨床研修を修了された方々を招いて、藤が丘病院職臨床研修修了者同窓会を開催されました。

藤が丘病院では、平成16年度の制度開始より初期臨床研修医を受け入れ、熱心な教育体制のもと、毎年優秀な医師を多数輩出しています。

会場では、スクリーンに歴代の学年ごとの集合写真が映し出され、若かりし日々の懐かしい姿が大変盛り上がりました。各地で活躍されている先生方の近況報告も行われ、思い出話やそれぞれの専門分野について熱く語り合う場面が見受けられました。この同窓会を通じて、日々全国で活躍されている先生方のさらなる交流が深まればという主催者の思いも伝わってきました。



(藤が丘病院管理第一課 吉田 なつみ)

スキルアップセミナー・アドバンスコースが開催されました

11月29日、神奈川県足柄上郡にある研修施設「テルモメディカルプラネックス」にて、初期臨床研修医一年次・二年次を対象にしたスキルアップセミナー・アドバンスコースを開催しました。

今年4月に実施したベーシックコースでは内科系手技が中心でしたが、今回は外科系手技を中心にプログラムを組み、実際に現場で使用する医療機器や本格的なシミュレーターなどを用いて実践的な手技講習を行いました。また、藤が丘病院の各診療科の医師がインストラクターとして派遣されました。

セミナー終了後は懇親会を開き、コーディネーターの消化

器・一般外科 田中教授より参加者へ修了証、研修管理委員長の腫瘍内科・緩和医療科 市川教授よりインストラクターへ感謝状がそれぞれ授与されました。また、表彰式では各インストラクターの点数評価を基に 5 つの賞が設けられ、プレゼンターの眞田病院長・田中教授・市川教授より賞状と記念品が贈呈されました。



(藤が丘病院管理第一課 吉田 なつみ)

美味しいお話し第11回

鮭の味噌クリームシチュー

日に日に寒くなり、冬も本番となってきたこの季節は、温かい料理が身にしみますね。ほっこり温かいスープ、大人数で囲む鍋物など、温かい食事は胃も心も温めてくれます。

私はこの季節になると、シチューが恋しくなります。幼い頃、寒い外から帰ってきて食べる温かいシチューが大好きでした。今回は、和風に仕上げたシチューをご紹介します。いつものクリ



ームシチューとは一味違うシチューで、胃も心も温めましょう！

【材料(2人前)】

生鮭 切り身2切 玉ねぎ 100g(中1/2個)
 じゃがいも 100g(中1個) 人参 50g(小1/2本)
 しめじ 50g(1/2パック) 白菜 100g(中くらいの葉2枚)
 バター 15g 牛乳 300cc
 だし汁(お好みの和風だしで) 100cc
 味噌 大さじ1と1/2 (お好みで醤油小さじ1)

【下準備】

人参は大きめの乱切り、じゃがいもは1口サイズ、玉ねぎは3mm程度のくし切り、白菜は5-6cm角に切る。
 鮭は切り身1枚を3~4等分(食べやすい大きさ)に切る。
 牛乳は常温に戻しておく(小麦粉がダマになりにくくなる)

【作り方】

- ① 鍋にバターを熱し、溶けたら玉ねぎを加えて炒める。玉ねぎから水が出てしんなりしてきたら、小麦粉をふり入れて手早く炒める。
- ② ①にしめじ、人参、じゃがいもを加え軽く炒め合わせる。
- ③ ②に常温に戻した牛乳とだし汁をダマにならないように少しずつ加えて、そのつとよときませる。鮭も加え、崩れないように優しく混ぜながら中火で約10分間、具が柔らかくなるまで煮る。
- ④ ③に白菜を加えて1-2分煮た後、みそをとき入れてさっと煮る。好みに醤油を足して味を調べ、器に盛る。

【ポイント】

※玉ねぎから水分が出た所で小麦粉をふり入れるとダマになりにくいのでここは手早く！
 ※今回はじゃがいもと鮭ですが、里芋やかぶなど和の食材も合います。
 ※水炊き等シンプルな鍋の残り汁を①の工程のあとに加えても、色々な食材のうまみでおいしく仕上がります。

(藤が丘病院栄養科 星川 麻美)

病院だより掲載用写真募集

本誌に掲載する写真を随時募集しております。写真データとお名前(イニシャル・ハンドルネーム可)、コメント(100字以内)を広報委員会までお送りください。

広報委員会 f-press@ofc.showa-u.ac.jp

診療統計 2015年10月・11月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2015年10月	2015年11月	2015年10月	2015年11月
外来患者数	29,597人 (1138.3人)	26,824人 (1166.3人)	4,985人 (191.7人)	4,422人 (192.3人)
入院患者数	15,809人 (510.0人)	14,822人 (496.1人)	4,316人 (139.2人)	4,399人 (146.4人)
紹介率	88.5%	90.8%	55.1%	59.2%
逆紹介率	54.6%	62.6%	78.9%	80.8%

《編集委員》

高橋 寛	佐々木 春明	小岩 文彦	池田 裕一	磯 良崇	芳賀 ひろみ
辻本 さなえ	吉原 利栄	出川 美幸	大塚 幸彦	小宅 育代	岩井 譜憲
飯田八代枝	松尾 悠	高橋 良治	(順不同)		